

第 21 回かんもん景気ウォッチャー調査

平成 21 年 11 月調査結果

最終消費を中心とした関門地域の景気動向を、「第 21 回かんもん景気ウォッチャー調査」結果からみると、3 か月前と比べた景気の現状判断 D I は、前回調査（平成 21 年 8 月）から 10 ポイント下降して 28.4 となり、現在の景気水準自体の判断 D I は前回は 1.6 ポイント下回る 19.8 となった。なお、先行き判断 D I は、37.1 の見通しにある。

景気ウォッチャーによる判断を総合すると、関門地域の景気の現状は引き続き厳しいことを示すものになっている。

（この調査の対象先）

・ 大型小売店・専門店等	6 人
・ 飲食店関係（含むスナック）	5 人
・ 観光関連（ホテル・旅行業者）	7 人
・ タクシー業界	4 人
・ 商工業団体等	8 人

計 30 人

〔 照会窓口：調査室 〕
TEL：083-223-3632

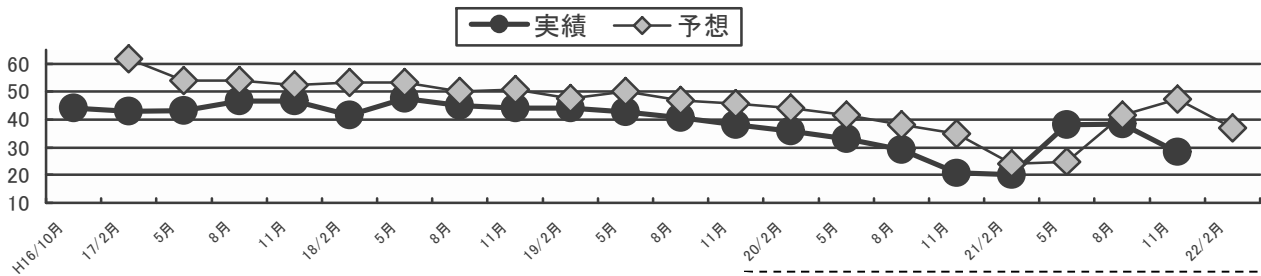
調査結果の概要

1. 景気の方角性に関する判断DI

3か月前と比べた景気の方角性に関する判断DIは、28.4と前回調査を10.0ポイント低下した。なお、平成22年2月頃を見通した先行き判断DIは、37.1となることが見込まれている。

平成21年 2月実績	平成21年 5月実績	平成21年 8月実績	平成21年 11月実績	平成22年 2月予想
20.0	38.3	38.4	28.4	37.1
〔前回調査時点 予想24.2〕	〔前回調査時点 予想25.0〕	〔前回調査時点 予想41.7〕	〔前回調査時点 予想47.3〕	

▽「景気の方角性に関する判断DI」（調査開始時点からの推移）



(注)DIの見方

判断DIは「50」を基準点として、上回れば「景気が良い」との見方が多く、下回れば「景気が悪い」との見方が多いことを示す。

(1) 3か月前と比べた景気の現状判断DI

3か月前と比べた関門地域の景気の現状判断DIは、28.4と前期を10.0ポイント下回り、「景気は横ばい」であることを示す50.0を割り込んだままとなっている（内閣府による全国の調査結果は33.9）。

景気ウォッチャーからは、「生活必需品に大きな落ち込みはないが、買物のランクは一段下がっており、生活防衛意識は強くなっている。」（小売）、「高速道路料金割引の影響か客は土日に集中し、平日が少なくなっている。土日の天候が悪ければそのまま落ち込む状況である。」（観光関係）、「海外旅行、国内旅行とも年配者が動かなくなった。」（観光関係）、

「団体の予約がキャンセルされ、ファミリー客が減少するなどインフルエンザの影響も大きい。」（観光関係）などの意見があり、関門地域の景気は引き続き厳しいものとなっている。

(2) 景気の先行きに対する判断D I (3か月先までの見通し)

3か月先までの景気の判断D Iは37.1となった(全国の先行き判断D Iは34.5となっている)。

景気ウォッチャーからは、「失業者の増加や賃金・ボーナスの減少が伝えられ、消費マインドの回復は短期的には見込めない状況である。」(小売)、「経済施策などみても回復への強力な材料がない。雇用不安などから消費者は萎縮している感じがする。」(観光関係)、「昭和レトロ館の開設で賑わいが増した。今回決まった三宜楼の修復整備などまとまりある集客方策を継続検討していきたい」(商工業団体等)といった意見が聞かれる。

また、「大河ドラマにもあやかり、下関の町を全国的にPRしていく。海響館のペンギン村や田中絹代記念館などの新しい観光スポットの集客効果に期待したい」(商工業団体等)、「環境の悪い中で簡単には上昇を見込みづらいが、情報発信やサービス改善などを戦略的に仕掛けることによって改善を図る余地は大いにある。そのための官民の協力、組織立った連携がぜひ必要である。」(観光関連)といった声も出されているところである。

2. 現在の景気の水準に対する判断D I

関門地域の判断					(参考) 全国の判断				
20年 11月	21年 2月	21年 5月	21年 8月	21年 11月	20年 11月	21年 2月	21年 5月	21年 8月	21年 11月
21.7	18.3	26.7	21.4	19.8	18.9	14.7	23.1	28.7	24.5

現在の景気の水準自体が「良いのか」、あるいは「悪いのか」に関する判断D Iは、前回調査から1.6ポイント悪化して19.8となった。

以 上

(参 考)

かんもん景気ウォッチャー調査について

1. 調査の目的

関門地域において、景気に関連深い動きを直接観察できる立場にある方々のご協力を仰ぎ、この地域の動向を的確かつ迅速に把握するとともに、景気動向判断の基礎資料の1つとすることが目的。

2. 調査の範囲

(1) 対象地域

下関市周辺地域および北九州市門司港周辺地域。

(2) 調査客体

個人消費の動向を中心に景気動向を敏感に反映する現象を観察できる方々の中から、30人の方にご協力いただいている。

3. 調査事項

(1) 景気の現状に対する判断（方向性）

(2) (1) の理由

(3) 景気の先行きに対する判断（方向性）

(4) (3) の理由

(参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4. 調査・発表時期

調査は、毎年4回（2月、5月、8月、11月の月中）実施し、その翌月発表する。

5. DIの算出方法

景気の現状、又は先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DI値を算出している。

評価	良い (良くなっている)	やや良い (やや良くなっている)	どちらとも言えない(変わらない)	やや悪い (やや悪くなっている)	悪い (悪くなっている)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0